

子どもと女性の健康相談室

37



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター長

水沼 英樹氏

「OCC」すなわち経口避妊薬(Oral Contraceptive)は、一九六〇(昭和三五)年に米国で初めて認可された薬剤で、正しく服用されれば最も高い避妊効果を持ち、現在では世界中で広く使用されている製剤となつてい

ます。発売当初は、含まれる女性ホルモン(エストロゲンとプロゲステロン)の含有量が高かったため血栓症などの副作用が問題となりましたが、その後、できるだけホルモン含有量を減らす方向での開発が進められ、一九九〇年代には現在の低

用量ピルが使われるようになっていきました。これに対し、わが国では先進国の中で唯一低用量ピルが使えない国と揶揄(やゆ)されていたほどです。わが国でこれほどOCCの導入が遅れた背景には、ピルを解禁すれ

ば性道徳が乱れるとか、あるいは性病がまん延するとかなどの政治的・科学的根拠のない意見があったようですが、あながちそうではなかったと思います。

改善、月経量の減少、月経前のイライラなどの不快な症状の改善や生理不順の解消など月経に伴う症状に対する効果に加え、ニキビや多毛の改善、

さらには卵巣がんの発生リスクを低下させるなど極めて多彩な作用が報告されています。

健康の維持にも活用

トロゲンとプロゲステロンの含有量が高かったため血栓症などの副作用が問題となりましたが、その後、できるだけホルモン含有量を減らす方向での開発が進められ、一九九〇年代には現在の低

用量ピルが使われるようになっていきました。これに対し、わが国では先進国の中で唯一低用量ピルが使えない国と揶揄(やゆ)されていたほどです。わが国でこれほどOCCの導入が遅れた背景には、ピルを解禁すれ

ば性道徳が乱れるとか、あるいは性病がまん延するとかなどの政治的・科学的根拠のない意見があったようですが、あながちそうではなかったと思います。

一方、低用量OCCには避妊以外にさまざまな副作用、すなわちメリットのあることが明らかになってきました。月経痛の

て、副作用の発生がゼロになったわけではありません。極めてまれですが、重篤な副作用の発症も知られていますので、服用に当たってはやはり注意が必要です。今ではガイドラインも整備されていますので、主治医とよく相談されると良いでしょう。

経口避妊薬

一方、低用量OCCには避妊以外にさまざまな副作用、すなわちメリットのあることが明らかになってきました。月経痛の

持つ薬剤として承認され

次回(5月20日)掲載